

# Doronko

子育てから世界は変わる。

Doronko group どんこんこ会グループ法人一覧

## 株式会社ゴーエスト

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階  
TEL 03-5766-8060  
FAX 03-5766-8061

## 株式会社日本福祉総合研究所

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階  
TEL 03-5766-8070  
FAX 03-5766-8071  
一般労働者派遣事業 許可番号: 販13-304532

## 社会福祉法人どんこんこ会

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階  
TEL 03-5766-8050  
FAX 03-5766-8051

## 株式会社南魚沼生産組合

〒949-6416  
新潟県南魚沼市大木六37  
TEL 025-788-0840  
FAX 025-788-0841

## 株式会社Doronko Agri

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷1-2-5 MFPR渋谷ビル13階  
TEL 03-4363-5651  
FAX 03-5766-8061



社会福祉法人どんこんこ会(本社 運営部)は2016年4月1日  
"保育サービス提供"でISO9001:2015の認証を受けました。  
(認証登録番号: C2025-01049)



どんこんこ会グループの施設は、  
環境マネジメントシステムの国際規格  
「ISO14001:2015」の認証を受けています。  
取得施設についてはこちらをご覧ください→



経験して、知る。  
背中であ、教える。

Doronko コーポレートサイトはこちらから



新卒採用サイト



中途採用サイト



# Doronko

どんこんこ会グループ 法人案内

## “子どものにんげん力”を育む 「私たち大人のにんげん力」

子どもたちにはいつも目をキラキラとさせて意欲ある顔をしてほしい。20代の頃に1園目の保育園をオープンして以来、ずっとそう願ってきた。これから先の人生で待っているであろうたくさんの試練に対し、そっぽを向いたりあきらめたりせず、まずは自分で切り拓き乗り越えてゆこうと思う気持ちを育んであげたい。私たち「子育て者」は、人生の一番はじめのこの人格形成期に子どもたちが獲得すべき“真に必要な直接体験”を、時代の変化と共にひたすら追求し続けなければならない。

自然の中に足を運び、“痛い、汚れるなどの体験”を通じて、命をはじめとするさまざまな環境を自ら認識し、太陽の下で自由に体を動かし、お腹が空いておいしいご飯を食べ、ぐっすりとする。意欲ある素敵な表情は、このプラスのサイクルから生まれてくるのだ。

さまざまな他者との“モノの取り合いなどのトラブル”を通じて、立場や特性や意見が異なる人が生活・遊び・労働を共にしていることを知る。自分の気持ちに折り合いをつける力は、この思うとおりにならない経験の積み重ねから後天的に身につくのだ。

そして、何よりも必要なのは、これらの“子どものにんげん力”を育む「私たち大人のにんげん力」である。生活と遊びは子ども自身が選択する。道具の使い方・遊び方・うた・広い社会での危険回避力・仕事・環境への意識は、私たち大人が背中から教える。大人が常に学び続け、自らの意思と判断のもとで全ての子をたくましく育ててゆく。

そんな日本を創りたい。



株式会社日本福祉総合研究所 代表取締役  
社会福祉法人どろんこ会 理事長

安永 愛香



株式会社ゴーエスト 代表取締役  
株式会社南魚沼生産組合 代表取締役  
株式会社Doronko Agri 代表取締役

高堀 雄一郎

福祉、農業、酪農、林業、漁業…  
子育て支援を中心に、地域を良くする。  
日本を良くするために  
私たちは挑戦を続けます。

急速に進むIT化、AI技術の進化、メタバース(仮想空間)の出現。私たちを取り巻く環境は激変しています。今後、人口減少も相まって、無くなる産業も確実に出てくるでしょう。

それでも人格形成に多大な影響を与える児童福祉領域は必ず残り、IT化が進む中で子どもたちの心を育む私たちの仕事の重要性はますます大きくなると確信しています。日本の未来を左右する可能性もある私たちの職務は、一生を懸けるに値する尊いものです。

子どもたちに必要な体験を私たち大人が本気で用意する。環境に恵まれていないからなど、できない理由を探すのではなく、率先し、工夫して実現する。にんげん力を育み、生き生きと前向きに歩む心を育むことが私たちの責務であり、やりがいです。

そして、必要な体験を考えたとき、私は日本の原風景を想像します。生活に必要な物がまとまっている風景。それは昭和までの農村部の風景かもしれません。生活のためにヤギや鶏を飼い、ふんが堆肥となり、畑や田んぼの肥料となる。化学肥料は使わずに安心な食料を自給する。燃料は山にある木から調達し自然と共存する。子どもたちに用意すべき環境や体験は、生きることに直結する一次産業が多いことに気づきます。

一方で一次産業の多くが後継者不足等の理由で廃業を余儀なくされており、大きな社会課題となっていますが、地域活性化の観点からも守り、後世につないでいくべきと考えています。子育て支援を中心に、子どもたちの人格形成のために、地域のために私たちは何ができるか？

地域や日本という広い視野で物事を考え、挑戦する職員集団、そんな風土を持った法人グループを目指します。



## どろんこ会の歩み

1992	1998	1999	2003	2005	2007	2010	2013	2014	2015	2016	2018	2022	2023	2024
有限会社ゴーエストを設立。(その後、株式会社へ組織変更) グループ第1号園「メリー★ホピンス」朝霞南口ルーム(朝霞市家庭保育室)を開園。 保育業界で初のコンピテンシーを作成し運用開始。	高堀と安永が大学在学中に、埼玉県志木市で学習塾の運営を開始。進学希望者のみならず、不登校や障害のある生徒など、さまざまな生徒の学習を支援。	朝霞市根岸台に百坪程度の農地を借りて、どろんこ農園開始。(当時はホピンス農園)	学童保育事業を開始。 新潟県南魚沼市にて3〜5歳児の田植え・稲刈り体験を開始。 本部を「メリー★ホピンス朝霞ルーム」内に設置。	株式会社日本福祉総合研究所を設立。翌06年、グループ初の事業所内保育所受託運営を開始。 本部を「メリー★ホピンス」朝霞ルーム内に移転。	社会福祉法人どろんこ会を設立し、埼玉県朝霞市にグループ初となる認可保育園「朝霞どろんこ保育園」を開園。 本部を「朝霞どろんこ保育園」2階に移転。	本部を東京都渋谷区千駄ヶ谷に移転。	株式会社南魚沼生産組合を設立。 新潟県南魚沼市に田んぼを確保し、ライスセンターも建設。 植え付けから、収穫・精米・発送まで給食米の完全自給自足を実現。	グループ初となる児童発達支援事業所「つむぎ 荻窪ルーム」を東京都杉並区に開所。	全国に先駆けしたインクルーシブ保育モデルの展開を開始。 認可保育園と児童発達支援事業所の子どもたちが共に生活する併設施設「駒沢どろんこ保育園」と「つむぎ駒沢ルーム」を開所。	グループ初となる児童発達支援センター「子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園」を開所。 本部を東京都渋谷区渋谷に移転。	就労支援事業を開始。 児童発達支援・放課後等デイサービス・就労継続支援B型の併設施設「つむぎ 武蔵野ルーム」を開所。 給食用有機野菜の生産を行う株式会社Doronko Agriを設立。	グループ初となる児童発達支援センター「子ども発達支援センターつむぎ 浦和美園」を開所。	認可保育園・児童発達支援事業所・学童保育室放課後等デイサービスの併設施設「香取台どろんこ保育園」とつむぎ香取台ルームを開所。	南魚沼生産組合の飲食店「スナックつむぎ」を東京都渋谷区にオープン。 ラング営業は就労支援の実地トレーニング、雇用先としても連携。 東京都初となる認可保育園と児童発達支援センターの併設施設「東大和どろんこ保育園」と子ども発達支援センター「つむぎ 東大和」を開所。

人も食も仕事も循環し、  
全ての人が「生きる力」をもって、  
よく生きられる社会を創る。

創業時からの27年間、子育てにおいて「インクルージョン」をキーワードに、障害の有無にかかわらず「混ざる」「ジブンで選択する、自己決定する」ことを大事にした事業を展開してきました。  
次は、保育や支援の現場でも健常者・障害者が共に働く未来を創るため、グループ内で調理や用務、農業スタッフとして就職できるように、農業と就労支援事業をスタート。農業では減農薬や有機農法で米や野菜を生産して給食食材を自給自足し、その給食残渣とヤギや鶏のふんを活用した有機肥料集合プラントを建設することで食の循環も実現します。  
人も食も仕事も循環させることで、0歳から人生を終えるその時まで、全ての人が「生きる力」をもってよく生きられる社会を創ります。



※園長大学®は株式会社日本福祉総合研究所の登録商標です。

BUSINESS 01

## 認定こども園・認可保育園・学童保育などの運営

株式会社コーエースト  
株式会社日本福祉総合研究所  
社会福祉法人どうんこ会



認定こども園、認可保育園、学童保育をはじめとする子育て支援事業を全国で展開

認定こども園、認可保育園、東京都認証保育所、院内・事業所内保育所、学童保育、病後児保育室、地域子育て支援センターの運営、一時預かり事業を実施。株式会社、社会福祉法人のもつそれぞれのメリットを生かしながら、全ての施設において同じ理念、子育て方針を掲げ、運営しています。畑仕事、ヤギ、鶏の世話、雑巾がけ、銭湯でお風呂の日。私たちは子どもたちにとって真に必要な体験を追求し、「にんげん力」を育みます。

共通理念のもと、広々とした園庭のある施設から駅ビル内の施設まで各地の個性を生かした子育て環境を実現

広々とした園庭に棚田のある園、雑木林を生かした園、閑静な住宅街にもかかわらずどろんこ遊びや畑仕事ができる園庭のある園がある一方、駅ビル内という抜群のアクセスながら屋上の園庭で思い切りどろんこ遊びのできる園など、それぞれの土地の特徴、地域性に合わせた施設整備を行っています。たとえ環境が異なっても「今、子どもたちに必要なことは何か」、「どんな環境や経験が成長につながるか」を本気で考え実践するスタッフの創意工夫こそが、子どもたちの「にんげん力」を育みます。



万博公園どろんこ保育園



GOOD DESIGN 2018年受賞

一宮どろんこ保育園



JR駅ビル内保育園

メリー★ポピンズ アトレ大森ルーム



子育て支援センター ちきんえつぐ

駒沢どろんこ保育園

BUSINESS 02

## 発達支援

社会福祉法人どうんこ会



「今、この課題ができればいい」ではなく、子どもたちの未来を見据えた「生きる力」を獲得する発達支援

児童発達支援センター・事業所および放課後等デイサービス「つむぎ」では、「今、この課題ができればいい」ではなく、子どもたちの学齢期、さらには大人になった時を見据えた「生きる力」を獲得する支援を行います。子どもたちが「やりたいことを選ぶ環境」を創り、見る力・考える力・運動機能・感覚機能を育むために戸外活動を積極的に行っています。そして10より100の経験をできるよう、発達支援のスペシャリストが個々に合わせた効果的なプログラムを提供しています。

障害の有無で子育てを分けない  
インクルーシブ保育を推進する  
どうんこ会グループの多機能型発達支援

障害児・者を「守る・分ける福祉」から「ジブンで選ぶ・社会を生きる福祉」へと変えるために立ち上げたのが「つむぎ」です。駅近でアクセスのよいビルのワンフロアで運営するテナント型の児童発達支援事業所を皮切りに、兄弟姉妹が暮らす大きな木のおうちを彷彿とさせる子ども発達支援センター、さらに認可保育園との併設型、放課後等デイサービスや就労支援を備えた多機能型と、インクルーシブ保育を推進、発展させています。



東大和どろんこ保育園・子ども発達支援センターつむぎ 東大和



テナント型事業所

つむぎ 荻窪ルーム



認可保育園×発達支援×放課後等デイサービス

香取台どろんこ保育園×つむぎ 香取台ルーム



発達支援×放課後等デイサービス

つむぎ 生田ルーム

BUSINESS  
03

## 就労支援

社会福祉法人 どんご会



「守る・分ける福祉」から  
「ジブンで選ぶ・社会を生きる福祉」へ  
農福連携で人生の選択肢を広げていく

就労支援「つむぎ」が目指すのは、誰もが自分が選んだ場所で家族や友人と暮らし、自分が選んだ仕事に就いて、自分自身の人生をよく生きるため、就労や社会参画の場も創り、従来の「守る・分ける福祉」から「ジブンで選ぶ・社会を生きる福祉」へと変えていくことです。グループ内の法人の連携を活用し、農業への従事、保育園での調理、カフェでの販売など、「こなす作業」を割り当てるのではなく、自分の「仕事」を持つ「職業人」として働ける場を創っています。

### 「働く」を支える 自家焙煎珈琲への挑戦と実践の場

就労支援「つむぎ」に併設するカフェでコーヒーの自家焙煎を開始しました。「福祉作業所で障害者がつくっているから」ではなく、あくまで「商品そのものの良さが認められて」世に流通し、利用者が稼げるようになることを目指しています。また、南魚沼生産組合が飲食店「スナックつむぎ」（東京都渋谷区）をオープン。ランチ営業では飲食店への就労希望者の実地トレーニング場所や雇用先にもなるよう、スパイスカリーの調理や実店舗での接客業務を経験する機会をつくり、就労や社会参画への支援を行っています。



飲食店「スナックつむぎ」の店内



直火式焙煎機で生豆からじっくりと焙煎



利用者が意欲をもって働ける場を創出

BUSINESS  
04

## 米・野菜の生産・販売

株式会社南魚沼生産組合  
株式会社 Doronko Agri

給食米の完全自給自足を実現  
次は減農薬・無農薬野菜の栽培と提供に挑戦

株式会社南魚沼生産組合では、新潟県南魚沼市に約46ha（東京ドーム約9個分/2025年現在）の田んぼを確保し、減農薬のコシヒカリを生産しています。ライスセンターも完備し、育苗から植え付け、収穫・精米・発送まで給食米の完全自給自足を実現。毎年、園児や職員、保護者など約1200人の田植え・稲刈りツアーを受け入れ、食の循環を学ぶ機会も創っています。同様に、安心安全な給食野菜の自給自足のため株式会社Doronko Agriを設立。東京や埼玉など関東近郊の農地を確保し、減農薬で生産しています。



ライスセンター

### 保育×農業 農福連携で実現する持続可能な循環型社会

米づくりの労働体験を通して、子どもたちの「生きる力」を育むために始めた南魚沼市での田植え・稲刈りツアー。この活動を機に棚田の後継者不足の問題を知り、南魚沼の農業を守るために地元農家の方と株式会社南魚沼生産組合を設立しました。主に中山間地の棚田を引き継いで給食米を生産し、耕作放棄地対策、新規就農者の雇用創出等を実現。また、地元の狩猟者と取り組む鳥獣被害対策の一環として解体加工施設をつくり、ジビエの販売やレストラン開店、給食食材への利用も準備中です。子どもへの「命あるものをいただく」食育×農業で、持続可能な循環型社会づくりに取り組んでいます。



新潟県南魚沼市の棚田



鳥獣被害対策



フルーツマト「ボモ・ロッサ」の生産

BUSINESS  
05

## 学び事業

株式会社日本福祉総合研究所



保育士だけでなく調理師・栄養士、  
障害児支援の専門士、子育てに関わる  
全ての大人の「生きる力」を育む研修を

どろんこ会グループでは受け身ではなく能動的な学びを大切に  
しています。保育の実践的な内容からリスクマネジメント、社会人  
として必要な一般スキルまで、幅広いテーマでのセミナーを実  
施。さらに海外で学ぶ「デンマークインターンシップ研修」も設け、  
保育の質の向上を目指します。



日本の保育を更新する園長大学® 保育士大学を開校  
保育士等キャリアアップ研修の実施

教育の在り方が変わりゆく今、旧態依然な保育業界を更新する  
ため、全国の園長・保育士向けに「事業計画・採用面接・会議運  
営・職員育成など園長に不可欠な研修」「保育士として手に入れ  
たいゼネラル・スペシャルスキルを得るための研修」「新たな教育  
を理解し行動変容につなげる研修」「生きる力ある園長・保育士  
であり続けるための幅広い研修」を提供します。



対面型研修で学び合い  
新たな気づきを得るプログラム

研修はオンデマンド授業だけでなく、宿泊型やゼミ形式など対面  
でも実施。保育での戸外活動をテーマにしたアウトドアスクーリ  
ングなど実務に直結する内容から、災害時に役立つ小型重機の操  
縦実技講習まで、多彩なプログラムを用意しています。新たな気  
づきを得られるよう、全国から集まる保育者と交流し、法人の垣  
根を越えた学び合いを重視しています。

BUSINESS  
06

## 旅行事業

株式会社日本福祉総合研究所



子育てに携わる全ての人に  
学びのある旅行プランを提供

株式会社日本福祉総合研究所では、主に子ども、保育事業者  
を対象とした旅行事業を展開しています。一施設だけでは実現  
が難しい規模の体験活動も可能。幼児教育や発達支援におい  
て長年の実績を持つどろんこ会グループだからこその提案で、  
子どもだけでなく子育てに携わる大人にとっても学びとなる旅  
行プランをご用意いたします。

※東京都知事登録旅行業 第2-8504号



旅行事業事例①

海の恵みや命の重みを体感する地曳網体験ツアー

漁の始まりを告げる船出から、みんなで力を合わせて網を引い  
て魚を捕る「地曳網漁」。獲れた魚の観察や持ち帰りまで漁業  
の一連の流れをまるごと体験。どんな魚が獲れるかは当日のお  
楽しみ。子どもたちの好奇心をかき立て、目を輝かせながら、自  
然の営みや命の大切さを学べる機会を創っています。



旅行事業事例②

自然豊かな沖縄で楽しむ発達支援ツアー

親子で思い切り楽しみながら発達支援のプログラムを受けられ  
る旅行業界でも類を見ないツアーです。カヤックやシュノーケルな  
どのマリナクティビティ、乗馬や餌やりといったホースセラピーを  
体験しながら、子どもたちの心身の発達を促します。

BUSINESS  
07

## 保育事業コンサルティング

株式会社日本福祉総合研究所



主な事業内容①

### 子育て支援施設の民営化に伴う開設・運営、街づくりや土地活用等のコンサルティング

株式会社日本福祉総合研究所では、どろんこ会グループのシナジーを生かした子育てを基点とする街づくりや土地活用のコンサルティング、公立保育所の民営化、認可保育所と児童発達支援事業所の多機能型モデルの提案などの実績が多数あります。

【事例】

- 東京都東大和市に全国でも例の少ない「認可保育園×児童発達支援センター」の多機能型インクルーシブ施設の整備を提案し、協定を締結。
- 東京都目黒区、千葉県君津市、新潟県南魚沼市など自治体初の民営化を実現。
- 千葉県袖ヶ浦市、「百目木公園」内の認定こども園×児童発達支援を併設したインクルーシブ施設を開所
- JR川崎駅「アトレ川崎」、JR仙台駅「エスバル仙台」など駅ビルや商業施設での開設も多数。



主な事業内容②

### 院内・事業所内保育所の開設コンサルティング・受託運営

豊富な運営実績とノウハウに基づいた柔軟な保育サービスの提供と、企業力強化につながる保育所開設のコンサルティングを行っています。

【主な取引先】

- 株式会社ブリヂストン | 国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA) | ヒューリック株式会社 | 株式会社セブン-イレブン・ジャパン |
- 株式会社ビックカメラ | エスピー食品株式会社 | 神奈川県立がんセンター | など多数

BUSINESS  
09

## 全国の自治体、学校、企業、諸外国との連携

社会福祉法人どろんこ会

どろんこ会グループは、様々な教育機関、企業、行政と連携、共創することで、「子育てから世界は変わる。」の実現に取り組んでいます。



連携事例①

### 福岡県小郡市と「保育・幼児教育および障害児福祉等に関する連携協定」を締結

福岡県小郡市とどろんこ会グループは、官民一体でのインクルーシブ保育・教育の推進に加え、障害児福祉や地域子育て支援、農福連携など多岐にわたる連携協定を締結しました。活発な人的交流や認可保育園×児童発達支援事業所の完全併設施設の開園などを通じて、共に共生社会の土台を創り上げることを目指します。



連携事例②

### 広尾学園中学校高等学校と「教育と保育の質の向上に資するための連携協定」を締結

広尾学園中学校高等学校とどろんこ会グループが相互に連携しながら、教育、保育の質の向上を目指すことを目的としています。インターンシップや保育士体験など生徒へのキャリア教育の機会提供、双方の教職員と保育者の交流や勉強会、さらには教育と保育の質の向上に関する協同研究も視野に入れた連携内容となっています。

BUSINESS  
08

## 調査・研究 - Doronko LABO® -

株式会社日本福祉総合研究所



### 調査研究結果や論文などの学会発表

#### すべてはより良い保育環境を創るために

スタッフ約2,700人、利用家庭約7,000、施設利用者数約10,100人※のどろんこ会グループの母集団を生かし、保育・教育・児童発達支援・就労支援などに関する自社調査・研究、その他、大学など教育機関の論文・学術調査への協力、共同調査・研究も行っています。 ※2025年3月現在

【自社調査・研究実績事例】（一部抜粋）

- 幼児期の性教育意識調査(2022・2023・2024)
- 多文化共生に関する意識調査(2023・2024)
- インクルーシブ環境における保育及び発達支援の効果と課題に関する質的研究
- 放課後等デイサービスにおける物的環境調整によるコミュニケーション行動の促進に関する事例報告  
—応用行動分析的観点から見た支援の考察—

【調査・研究協力事例】（一部抜粋）

- 鉄道高架下における保育施設の配置タイプと計画プロセス  
—園庭の配置と鉄道事業者の関与に着目して—  
明治大学 都市計画研究室
- 駅型保育施設における計画設計プロセスに関する調査研究  
—P保育園計画プロジェクトを事例として—  
千葉大学 柳澤研究室・株式会社ポケモン
- 子どもの居場所としての保育所・学童保育複合施設の可能性  
早稲田大学大学院人間科学研究科佐藤将之研究室  
三國 隆子氏
- 未就学児の多様性への寛容さに関する研究  
東京大学 医学部 健康総合科学科看護科学専修  
家族看護学教室研究責任者：教授 池田 真理氏
- インクルーシブ保育の推進に向けた情報・教育的コンテンツの整備事業に係る調査研究  
東京都/東京大学/東京科学大学

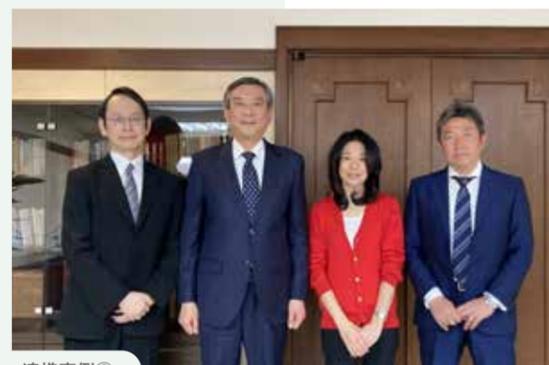
【共同研究事例】（一部抜粋）

子どもの成長と足部の形状に関する研究  
東京工科大学 医療保健学部リハビリテーション学科  
理学療法専攻 講師 高木 健志氏

コンフリクトの構造解明による事前対応型マネジメント開発に向けた学際的アプローチ  
大阪公立大学都市科学・防災研究センター/  
大学院現代システム科学研究科 教授 野村 恭代氏



※Doronko LABO®は株式会社日本福祉総合研究所の登録商標です。



連携事例③

### 台湾教育省と「台湾研修生海外研修支援事業」に関する協定書を締結

台湾教育省がどろんこ会グループの理念「にんげん力。育てます。」に共感し、本事業の保育分野における唯一の研修先として選定。各施設での保育研修、保育者との交流や勉強会、新潟県南魚沼市での農業研修などの研修プログラムを実施し、相互の学び合いにつながる連携協定を締結しました。



連携事例④

### 全国の自治体や保育団体、大学などからの研修・講義依頼 講師派遣で「学び」を共創

インクルーシブ保育や乳幼児の性教育、食育、農福連携、情報セキュリティなど、さまざまな分野で研修・講義依頼をお受けしています。どろんこ会グループが培ってきた知見や現場スタッフの実践知を惜しみなく共有し、保育・教育・発達支援の質向上のために学び合う機会を創っています。

# にんげん力。育てます。

「にんげん力」を身につけるために必要な遊び・野外体験を提案実践し、  
“自分で考え、行動する思考”を育み、  
若者が「0を1に変える力」で課題や困難に向き合うたくましい未来を創ります。

私たちは、言うことを聞く子を育てるのでも、指示を待つ子を育てるのでもありません。  
私たちは、困ること・思うようにならないことがあれば、人に尋ね、自分で考え、周りと相談して行動してゆくように支援します。  
子どもを言葉で動かさない。大人が指示しない。  
大きな家を自由に行き来し、兄弟姉妹が生活・遊び・労働を教え合う。  
環境を構成し、材料を配置して、乳幼児期に経験しておくといふと良いであろう機会を10よりも100創る。  
それが私たち、どろんこ会グループの子育てです。

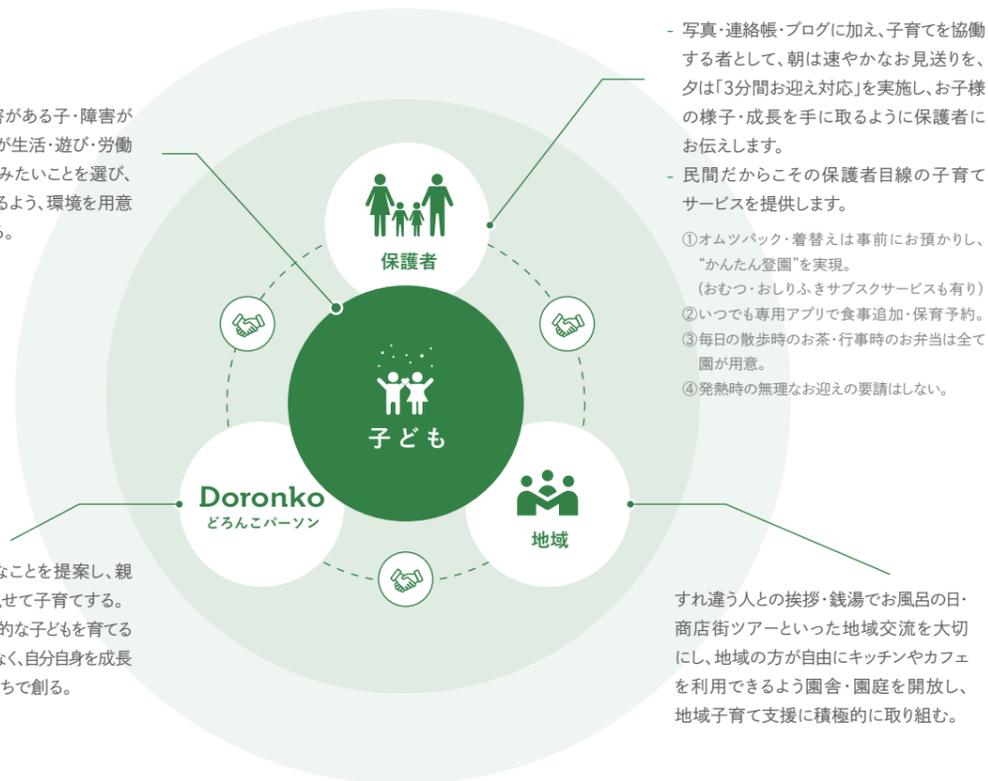
## センス・オブ・ワンダー

子どもが“畑仕事・稲刈り・ヤギや鶏の世話などの労働”や、“自然の中での体験”を通して、ものの性質や身近な事象・生命の尊さ・食材や食の循環に気づくことができるように、10よりも100の経験の機会を創り、子どもが“したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。

## 人対人コミュニケーション

園外では「すれ違ったすべての人」と挨拶を交わすことを園の約束としています。銭湯でお風呂の日、商店街ツアー、青空保育など地域交流を実施し、一人でも多くの人と挨拶を交わし、一つでも多くの仕事を目にする機会を用意し、“感じたこと・考えたこと”を言葉で、ジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。

全ての大人が、障害がある子・障害がない子・幼児・乳児が生活・遊び・労働を教え合い、やってみたいことを選び、日々を暮らしていけるよう、環境を用意し、見守り、支援する。



- 7:00 順次登園  
園庭遊び・自由遊び
- 8:15 水分補給・午前補食・排泄  
さくらさくらんぼリズム体操・うた
- 8:30 座禅・雑巾がけ
- 9:00 泥遊び・自然体験開始／散歩出発  
畑仕事・生き物のふんの始末や  
小屋掃除・裸足保育  
途中、水分補給
- 11:45 0・1・2歳児順次昼食開始  
／緑側給食  
水分補給  
着替え・歯磨き
- 12:15 3・4・5歳児昼食開始  
／緑側給食  
水分補給  
着替え・歯磨き
- 12:30 0・1・2歳児午睡
- 13:00 3・4・5歳児午睡
- 14:30 起床・排泄・手洗い
- 15:00 おやつ・水分補給
- 15:25 午後の活動／外遊び・散歩
- 日没 室内活動へ
- 18:30 片付け・水分補給・排泄
- 19:00 夕食

## 「考えて行動する力」を 育むデイリープログラム



座禅



雑巾がけ



さくらさくらんぼリズム体操



ヤギ・鶏の小屋掃除・ふんの始末



畑仕事



裸足保育



緑側給食



商店街ツアー



銭湯でお風呂の日

## 人生のはじめの人格形成期・性格形成期に リアルな経験を通じて自ら考えて行動する力を育む

「遊び」「生活」は、子ども自らが関わり選択できる環境を構成します。  
就学に向けた「体力作り」「善悪の判断・社会的ルール」「自分の仕事をする」「発表力・伝達力・傾聴力」「文字や数字の活用」「環境への意識」を伝え、機会を用意し、育みます。「生活力」「危険な物との距離の取り方」「うた」は、大人がやって見せて教えます。

## 異年齢保育・ インクルーシブ保育

### 年齢の違いや障害の有無に関係なく 全ての子が頼り合い、ぶつかり合い、教え合い、 共に暮らす保育

年齢が違う子同士、障害の有無関係なく、どの子もやってみたいこと・思いどおりにならないこと、全て実際に経験します。  
私たちは、0～5歳児が共に暮らし、頼りたい相手・遊びたい相手・遊びたい場所を子ども自らが選択し、行動できるようにするために“ゾーン保育”を実施しています。また、認可保育園と発達支援つむぎの併設施設では子どもたちは共に活動しながら、発達支援の専門士がつむぎ利用児童一人ひとりの発達状態に応じたきめ細かな支援も行っています。





Doronko Person  
01  
2023年度 新卒入社  
保育士  
中島 舜

仕事の悩みやプライベートの話もできる  
仲間がいると心強いです

■ どんこ会への入社を決め手を教えてください。

園庭で泥だらけになりながら遊んでいる子どもの写真が印象的で興味を持ちました。「にんげん力。育てます。」という理念に共感し、自ら考え行動しエネルギーにあふれているスタッフの姿を見て、自分自身が成長したいイメージと重なり、やりたいことが実現できるのではないかと思います。入社を決めました。学生時代に経験した食育・原体験と、子どもと触れ合う環境面の両立ができるのがどんこ会だと思ったことも大きいです。

■ 入社して感じたこと、学んだことを教えてください。

年齢が違う子どもたち同士で教え合ったり、学び合ったりできる環境が素敵だなと感じました。最初は、子どもが危ないことをした際やけんかをしてしまう場面で、子どもにどのような言葉をかけたらよいか分からず、子どもに答えを教える形で言葉をかけていました。しかし、子どもたち自身で解決できるように、子どもが自分で考え、選択できるようにすることが大事だと指導していただき、自身の学びにつながりました。



■ 自分の強みを教えてください。

相撲や鬼ごっこなど、ダイナミックな遊びができることが強みです。

またこれは自身の考えですが、送迎がお父様の場合、男性保育士がいることでコミュニケーションが取りやすくなり、来園しやすい雰囲気を作れるのではないかと思います。

お父様に限らずですが、保護者とのコミュニケーションを積極的にとっています。

■ 同期や他園のスタッフとの関わりはありますか？

同期とのつながりも強いです。自園に同期はいないのですが、研修やプライベートなどで関わることも多く、休日に食事に行くこともあります。仕事の悩みやプライベートの話もできる仲間がいると心強いです。

どんこ会グループは、自身が望めばさまざまな研修に参加できます。研修に参加することで、他園のスタッフとの交流ができ関係性が広がります。

毎日の給食で食べるお米がつくられている新潟県南魚沼市の田んぼで行う農業研修があり、そこでも多くのつながりができました。後日園を訪問したり、保育のアドバイスをもらったりと、他園のスタッフにも支えられています。

また、理事長・代表と直接話す機会もありモチベーションアップにつながりました。



Doronko Person  
02  
2021年度 新卒入社  
保育士  
鈴木 優花

やりたいことに挑戦できる環境に  
やりがいを感じています

■ どんこ会への入社を決め手を教えてください。

園見学で畑仕事を体験した際に、スタッフだけでなく子どもたちも一緒になって労働している姿、中でも幼児が乳児に教えてあげている異年齢の関わりを見て驚いたことが今でも印象に残っています。

自然に囲まれた中で育った私にとっては、緑にあふれた園庭や縁側給食など、他の法人にはない魅力を感じ、このような環境で働きたいと思ったことがきっかけです。

■ 関東での就職に不安はありましたか？

福島県出身で大学進学を機に上京しました。卒業後は関東での就職を第一に考えていましたが、地元に戻る選択肢もありました。両親が「自分の働きたい場所で頑張らなさい」と背中を押してくれたので、関東での就職を決めました。

法人の一人暮らしサポート制度が充実しているため、不安なく決意することができました。一人暮らしをしている先輩や同期が近くにいることも安心につながりました。有給休暇も取得しやすく、年に数回は地元に戻ってリフレッシュしています。



■ どんこ会だからこそ感じるやりがいを教えてください。

子どもも大人も全力で遊ぶことができる環境に魅力を感じています。スタッフが遊びを作って提供するのではなく、子どもたちが自ら考えて遊びを作っている中と一緒に楽しむことができるため、つい大人の方が全力で楽しんでいることもあります。

ただ遊ぶだけでなく、例えば絵の具を使った色水遊びでは、「この色とこの色を混ぜたらこんな色になるんだ」というように、遊びの中でも学ぶことができるよう日々工夫をしています。

また、提案したことに対して背中を押してくれるスタッフばかりで、やりたいことに挑戦、実現できる環境にもやりがいを感じています。

■ 今後の目標を教えてください。

自分のことだけでなく常に周りを見て困ったときには寄り添ってくれる、自園の先輩みたいな保育士になりたいと思っています。そのためには子どもたちやスタッフを日頃からよく見て、積極的に話しかけることを心がけていきたいです。

また、自分で考えて動くことを大事にしつつ、周囲の意見を聞きながら良いと思ったことはどんどん吸収したいと思っています。

他園に行って経験を積むことや、さまざまな資格を取ることで新しい知識を身につけ、子どもたちの体験の機会をもっと豊かにするための引き出しを増やしていきたいです。



Doronko Person  
**03**  
2019年度 中途入社  
施設長  
宮澤 叙栄

保育って楽しい!と思えるような  
環境作りを心がけています

■ 施設長として日頃から心がけていることを教えてください。

保育って楽しい!とスタッフが思えるような環境作りを心がけています。

日頃から、子どもたちの成長について、スタッフと話す時間をたくさん設けるようにしています。会話を通じて、スタッフが新しい発見をすることができ、子どものために何ができるかを自分で考えることがスタッフのモチベーションアップにつながると考えています。

上からの指示ではなく、自分で気が付いてやってみようと思えることで、保育を楽しんでもらいたいです。

■ 園の自慢を教えてください!

たくさんありますが、前向きでパワフルなスタッフが一番の自慢です。失敗を恐れずに何でもやってみる、たくましいスタッフたちです。もちろん大変なこともあります。ネガティブにならず、励まし合いながら失敗も楽しんでいる様子を見ると、頼もしく思います。

また、園には支援が必要な子どももいますが、手がかかる子、大変な子という捉え方をせずに、その子を肯定し成長を見守っている姿を見ると、常に前向きに保育をしていると感じます。



■ 悩んでいるスタッフにはどのようなサポートをしていますか?

まずはスタッフの話を聞き、何につまずいているのかを探り、解決策を教えるのではなく、自分で問題を乗り越えられるようなサポートをしています。例えば、行動の意図を聞いたり、何を感じたか問いかけることで自分の中で答えを見つけてほしいと思っています。

また、悩むことも成長につながると思うので、たくさん悩んで考えてほしいと伝えています。それでも悩むスタッフには、先輩から声をかけてもらうようお願いしています。親身に話を聞いてくれる先輩ばかりなので、安心して任せられます。



■ どろんこ会を目指す方へメッセージをお願いします。

どろんこ会グループにはいろいろなスタッフがいます。リーダーシップを発揮することが得意な人もいれば、自分のことを発信することが苦手な人、好奇心旺盛で何でもチャレンジしたい人や、慎重に物事を進めていきたい人もいます。いろいろな人がいるからこそ良い組織、良い園ができると思っています。どろんこ会グループで、自分にしかない強みを伸ばしながら一緒に頑張っていきましょう!



Doronko Person  
**04**  
2018年度 新卒入社  
栄養士  
阿部 佑菜

食べる意欲を育むことが  
どろんこ会グループの食育です

■ 保育園で働く栄養士を目指した理由を教えてください。

高校卒業時に進路を決める際、食について専門的に学びたいと考え、栄養学を学べる学校へ進学しました。就職活動の際に、資格を生かしながら働ける場を探している中で、もともと保育士を目指していたこともあり、保育園で働きたいと思いました。

■ 働くやりがいを教えてください。

自分の作った給食を、子どもたちがおいしそうに食べてくれる時間を共に過ごす時に、やりがいを感ずます。毎日子どもたちと一緒に給食を食べるのですが、子どもたちがおいしそうに食べている様子を見るとうれしく思います。給食の時間に、その日の活動の様子を聞くことが毎日の楽しみです。

■ 園で行っている食育の取り組みについて教えてください。

毎週子どもたちと一緒に給食の準備をする時間を設けており、野菜をちぎったり、米をといだりしています。一緒に給食を食べている時に、自分で下処理をした野菜を見つけると、うれしそうに教えてくれます。先日、1歳児の保護者の方が「家で教えていないのに玉ねぎの皮をむいていた」とお話ししてくださり、園で日々野菜に触れているからこそその行動だと感じました。

食育を特別な活動と捉えるのではなく、食べる意欲を育むために、日頃から子どもたちに食に触れてもらうことを大切にしています。



■ 印象に残っているエピソードを教えてください。

先日、茨城県内の系列園5園合同で「収穫祭」という行事を行い、各園で収穫した野菜を持ち寄り、芋煮を皆で作り食べました。そこで5歳の子どもたちに園で飼っていた鶏をさばく様子を見せたのですが、その時の子どもたちの真剣な様子が印象に残っています。

翌日の給食の際に、5歳児が下の年齢の子に鶏をさばく様子や命の大切さについて教えていました。普段から給食の時間は、楽しく意欲的に食べることを大切にしているのですが、子どもたちに完食を強いることはしていないのですが、言葉では伝えることができない、実体験のみ得られる何かがあったのだと感じました。直接体験を大事にしているどろんこ会ならではの取り組みだと思います。